

第5回 公立豊岡病院組合改革プラン評価委員会（議事概要）

I. 日 時：平成25年11月14日（木）14：00～16：00

II. 場 所：豊岡病院 2階 講堂1

III. 出席者

【委 員】

豊岡病院組合経営顧問	谷田 一久
豊岡市医師会長	舟木 宏
税理士	立花 正敬
豊岡市区長連合会長	村田 正次
豊岡市女性連絡協議会長	竹岡 多美子
豊岡市健康福祉部長	福井 周治
朝来市健康福祉部部長	尾崎 登
(欠席委員)	
朝来市医師会長	足立 秀
朝来市連合区長会長	岩村 年隆

【公立豊岡病院組合】

管理者	佐藤 二郎
理事	橋本 盛方
総務部次長	南 秀明
総務部次長	井添 俊宏
会計管理者	糸乗 章雄
人事課長	白髭 清久
企画課長	真那子一儀
調整課長	干場 康行
企画課参事	石橋 禎之
豊岡病院管理部長	岩上 定幸
日高医療センター事務長	和泉 啓子
出石医療センター事務長	尾崎 紳一
朝来梁瀬医療センター事務長	加藤 茂
朝来和田山医療センター事務長	岩野 茂
総務課係長	吉谷 拓也
総務課係員	片岡 宏之

IV. 会議次第

1. 開会（吉谷）

○配布資料の確認

2. あいさつ

(佐藤管理者)

○平成16年度の新医師臨床研修制度の施行を契機に、地域や診療科による医師の偏在が顕著となり、特に地域の基幹病院として「へき地医療」や「救急医療」「高度医療」を担う公立病院においては、従来の医療体制の維持、確保が大変厳しい状況となった。

そういった状況の中で、将来にわたり必要な医療を安定的に提供していくための抜本的な改革を目指し、平成19年12月に総務省が「公立病院改革ガイドライン」を示したことを受けて、当病院組合も平成20年12月に「公立豊岡病院組合改革プラン」を策定した。

「公立病院改革ガイドライン」では、「公立病院改革の3つの視点」として、経営効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直しが示され、当病院組合としては、経営効率化により平成29年度の経常収支黒字化を掲げたほか、再編・ネットワーク化では平成19年度に行われた但馬の医療確保対策協議会での再編を踏まえ、各病院が果たすべき役割を堅持するとし、経営形態の見直しでは基本的に現在の運営形態を維持するとしている。

改革プランの中では、プランの点検・評価等を行うための委員会を設置し、病院組合の現状を報告した後、改革プランの進捗状況についてご意見やご指導をいただき、今後の取り組みに反映させていくとしている。

委員の皆様には主として、経営効率化に向けた数値目標や取り組み状況について、評価していただくことになるが、ご忌憚のないご意見やご質問等頂戴したい。

(進行係)

○各委員、出席者を紹介

3. 協議事項

(1) 平成24年度を取組状況に対する評価について(事務局説明)

○資料1「公立豊岡病院組合改革プラン(概要版)」及び「各年度別数値目標」の説明

○資料2「平成24年度 決算の状況(収益的収支)」

24年度計画と24年度決算を比較し、比率が100%以上の達成は○、95%~100%は△、95%未満は×として病院組合の自己評価を行った。

○資料3「目標達成のための具体的な取組の進捗状況」

24年度取組計画に対する24年度取組実施状況について、取組が不十分であり、計画より著しく遅れているものは×、取組が不十分であり、やや遅れているものは△、計画を上回って進んでいるもの又は計画どおり進んでいるものは○として、病院組合の自己評価を行った。

【質問・意見等】

委員長：中間的なプランの見直しを実施するという考えはあるか。見直しを行う場合は、現在のプランで示している各病院が果たすべき役割についても見直しをするということか。

事務局：プラン全体の見直しを来年度行う予定であり、その際には各病院の果たすべき役割についても見直していく予定である。

委員長：豊岡病院と4医療センターの関係性について、医師の派遣の状況はどうか。また、それぞれの病院が持つ特性を知ってもらうという連携は行っているか。

事務局：4医療センターについては、実態として医師が不足しており、豊岡病院より当直業務の応援等は実施している。豊岡の医師は専門に特化した医師が多く、医療センターでは幅広い総合診療的なものが求められるというニーズの差はあるが、連携については少しずつ進んでいるものと考えている。

委員長：プランの見直し時には、連携についての記述も入れてほしい。

委員：豊岡病院単独の資料については、ドクターヘリ事業の影響を考慮した参考資料がつけられているので、全体についても同様に新たな事業の影響を反映させた資料を作成するべきである。過去の評価委員会資料を見ると、これまでは目標数値を超えていたものが、予算規模の違いによる比率の差はあるものの、平成24年度は初めて経常収支の赤字額が目標を下回っており、厳しい状況であると考えている。

委員：資料2について、過去の資料と比較した場合、出石医療センターの数値がどんどん悪くなっているが、課題を把握していても手の打ちようが無いということか。

事務局：医師不足が最大の要因であると考えている。阪神間の病院と地域医療研修についての協定を締結しており、但馬地域で行っている医療を経験してもらう枠組みは出来てきている。地域医療に興味を持つ医師にとって、組合内の病院で勤務することがキャリアアップを妨げるものとはならないような仕組みを現在構築中である。

委員：資料3の医師の業務軽減の項目にも関係するが、豊岡病院において、予約の受け入れ数科によって違い、医師によって異なる科もある。予約患者の受け入れ制限については病院側が行っているのか、医師が主導で行っているのかどちらか。

事務局：予約枠の数については、医師個人が設定している状況である。予約枠の問題に加え、検査結果についても組織としてどう統治していくかという問題であり、意識の向上に取り組んでいきたい。

委員：豊岡病院で紹介率が上がらない理由は。

事務局：豊岡市内に開業医さんがおられない診療科については、初診から豊岡病院を受診されることや、組合内病院間の紹介はカウントされないことなどが考えられる。

委員：未収金の発生額について、推移が資料で示されているが、この数値は累計のものか。

事務局：資料で示しているのは単年度の発生額である。

委員：未収金発生額の推移のデータについてはあまり意味が無いように思う。取り組みの内容としては、回収率等を示すデータを提示してもらう方が良いのではないかと思います。

事務局：未収金回収の項目については、回収率等もう少し詳細なデータを取りまとめたものを改めて提示するので、そちらを見てから評価を行っていただきたい。

委員長：平成24年度の評価については、各委員で評価したものを私が取りまとめて報告書という形にしたいと思う。取りまとめが出来たら各委員に確認してもらうということで進めていきたいと思う。

4. その他

事務局：この評価委員会の内容については、ホームページ等で公開することになっている。
議事録、評価の内容について取りまとめ、各委員の確認が済んでから公表とする。
次回の会議についても、来年の同時期に開催したいと考えている。

5. 閉 会 午後4時00分